

DATA FILE

(※非晶質)

名 前	COPAL (コパル) / コパル
化学組成	一定しない (C, H, O から成る)
色	黄色、赤色、オレンジ色
光 沢	樹脂光沢
蛍 光	青白色 (一部)
条 痕	白色
劈 開	なし
断 口	貝殻状
硬 度	2.5
比 重	1.01 ~ 1.03

コパル

COPAL

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

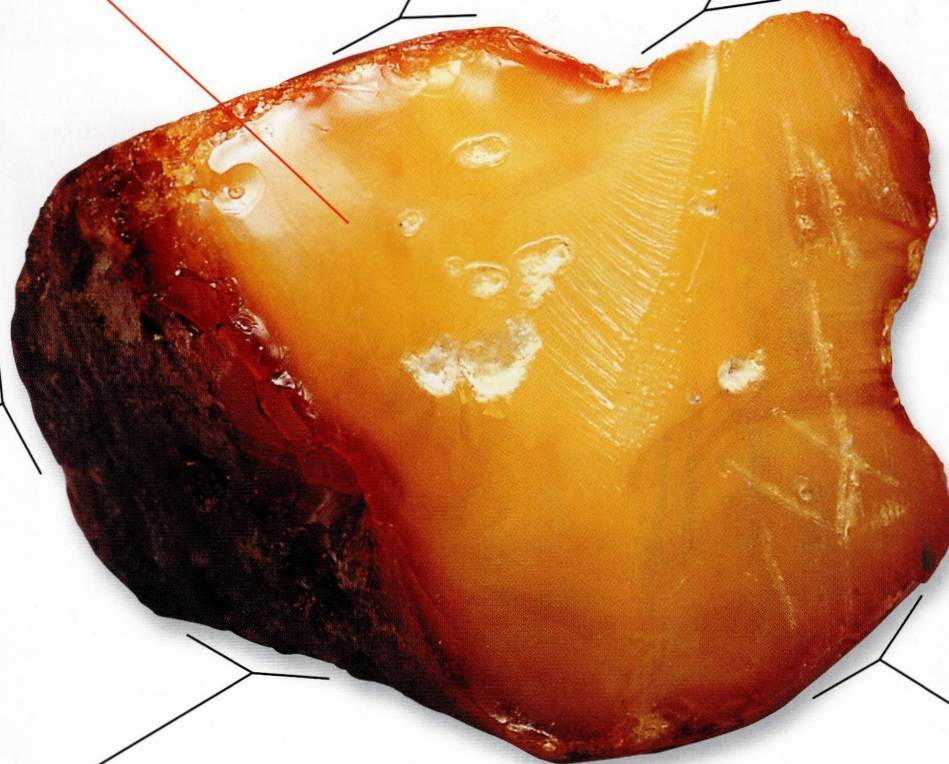
素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

樹脂光沢を示すコパル。

有機物質のひとつで、はっきりした結晶構造を持たない。

色は黄色のものが多く、赤色やオレンジ色のものもある。

紫外線ランプを照射すると青白色の蛍光を示すものがある。



樹脂の化石

コパルは、熱帯地方にあった樹木から分泌された樹脂が化石になったもので、中米のアステカ族の言葉で「樹脂」を意味する「コバリ」から名づけられた。有機物質のなかまで化学組成は一定せず、はっきりした結晶構造を持たない。色は主に黄色だが、赤色やオレンジ色のものも見られ、虫などが含まれている場合もある。アクセサリーなどに利用されるコパルは樹液が化石になったものだが、生きている樹木の根から液体のコパルが採られることもあり、この液体コパルは「ジャッカスコパル」と呼ばれ、ニスの原料に使われている。



▼コパルは樹脂が固まってできる。



▲フィリピンで産出したコパル。

コパルと琥珀

コパルは、同じく樹脂からできた化石である琥珀に外見がよく似ている。しかし、約100万年前より若い年代にできたコパルに対し、琥珀の生成は数百万年前。また、コパルは150度弱、琥珀は約200度で溶けるほか、比重の軽いコパルは海水に入れると水面に浮くが、琥珀は浮かずに水中を漂う。

▶塊状のコパル。



主な産地

